



くさしぎ便り

No. 8

くさしぎ・草の根市議と市政を考える会 2014年1月10日発行 e-mail kusasigi@nifty.com

子どもたちへ大切に手渡したい、あきる野の自然

～三内の砂防工事を考える～



三内川の思い出

来住野 安生

私は幼少期に父を亡くしましたが、口数の少ない父が残した僅かな昔語りの中に三内川のことも出てきました。

父の話では、子どもの頃は大川では遊ばなかった。子ども達は皆天神川で遊んだ、ということです。父の子供の頃というと一世紀も前のことになります。大川というのは現在の秋川本流のこと、天神川は三内川のことでの通称は私達も使っておりました。大川には河童がいるからあそこでは泳ぐな、とも言われたそうです。今の秋川より格段に水量が豊かで、筏を組んで東京湾まで木材を運んでいた時代のことです。

しかし、私の幼少期の頃（戦後のことになります）は、秋川の水量が少なくなったためでしょうか、川遊びの場は秋川に移っていました。逆に三内川に人影を見ることはほとんどありませんでした。稀に冒険好きの子ども達一私もそのうちの一人でした一が探検気分で谷底へ降りてゆく位でした。私たちはその秘密の遊び場で、沢蟹を採ったり、蜂の子を食べたり、ターザンの真似をして蔓にぶらさがって向こう岸に飛び移ったりしたものです。蔓が切れることはありませんでしたが、枝が折れたり撓しなったりしてよく水に落ちたも



三内川

のです。

多分、私たちが三内川で遊んだ最後の世代だと思います。その後人間との関係を絶ってしまった三内川は、そこに生きる動植物にとっては至福の時を迎えたともいえるのですが、現在は無残なことになってしまいました。

三内川については、もうひとつ。夏の夜明け前、川沿いの樹林帯から一斉に鳴き始めたヒグラシヒグラシの鳴き声のこと
も忘れられません。布団の中で毎日のように聞いたあの悲しいくらい優しい大合唱を、いつの頃からか聞くことが出来なくなつたのも残念です。



紅葉がちょうど盛りを迎えた11月25日、三内川のフィールドワークがおこなわれ、地質学者の小泉武栄先生を含む7名のメンバーが参加しました。

住宅街の脇から急坂の小道を下って、三内川の谷底まで下りてみました。斜面に生える木々にすっぽりと覆われた深い谷は、澄んだ水の流れと共に、ほっとする静かな自然空間。出発前に資料として配られた五日市駅周辺の航空写真を見ると、一面に広がる住宅地の中、三内川に沿ってくねくねとグリーンベルトが残されていることが一目瞭然で分かります。実際にその緑の中に身を置いてみて、改めて残された自然の貴重さを感じました。

下流側に進むとすでに砂防工事が始まり、樹木が伐採されているところでした。伐採の終わった区間は、上の道から谷底が丸見えになり、上流側とはまるで違った景観でした。

この日は、小泉先生からたくさんの興味深いお話を聞きました。三内川に多く見られるケヤキは、ミゾゴイが好んで営巣する木です。

ケヤキというと武蔵野のイメージがあり、街道沿いや屋敷など平坦な場所に生える樹木だと思っていましたが、本来は、岩のごつごつした崖地に生育する木で、硬い岩の間に根が入り込み、岩を噛むようにして大きくなるそうです。太いケヤキが生えているところは岩盤が固く、それほど崩壊の心配はないとのこと、この日歩いた区間（五日市駅近く～三内橋）には、太いケヤキが生えている場所も少なくありませんでした。三内川の地層の状態は場所によって異なり、そのことが生えている木の種類や太さなどからも分かるというお話は印象的でした。小泉先生のお話を聞きながら、今回の工事に当たって、どれだけきちんと地層の状態を調べたのだろうか……と疑問を持たずにはいられませんでした。

そして、「三内川は、数千年から1万年ぐらいかけてできあがった地形だと思われます」という言葉に、私たち人間は自然に対してもっと謙虚でありたいと、改めて思いました。(T・Y)



「ミゾゴイ」って、どんな鳥？



ミゾゴイは、水辺の鳥・サギの仲間です。中でもゴイサギやササゴイに似た体形をしています。沢沿いの湿った林内にいることが多く、鋭いくちばしを使って、枯葉の下に隠れているミズズや水辺にいるサワガニなどを取って食べます。また、ツバメやカッコウと同じように、春、日本に渡って来て子育てをする夏鳥です。三内川のように人里に近い溪流の谷を好み、そこに生えるケヤキなどに巣を作ります。これまでほとんど生態が知られることのないまま、環境破壊の影響を受けて生息数を減らし、今では絶滅の危機に瀕しています。現在、環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている他、国際自然保護連合では絶滅危惧ⅠB類になり、世界的に保護の必要性が高まっています。特に、日本はミゾゴイの唯一の繁殖地であり、その意味からも、ミゾゴイの生息環境を守ることは、私たちの重要な役割です。



三内川の砂防工事で、世界に千羽しかいないと言われる、ミゾゴイという希少な鳥の繁殖場所が破壊され、昨年の3月議会で問題になりました。その時の市の答弁は「今後は市内の専門家に相談し、砂防と自然環境の共生のための調査を都に依頼する」というものでした。

ところが、調査期間の途中なのに、10月、工事が始まってしまいました。近くに住民から知らされた私たちは、おどろいて都の工事担当者や市の関係部署に話を聞きに行き、質問状を出したりもしました。その結果、市側は都に調査の依頼はしたが、専門家の意見を聞くことはしなかったこと、都側はミゾゴイの営巣が確認されなかったので従来の工法で工事することにした、ということがわかりました。

議会で答弁したことを守らず、また、調査期間中なのに、今まで通りのやり方で工事を進めたことに納得がいかなかった私たちは、専門家の意見を聞き、樹木を切らない新しい

工法で砂防工事をするなども要望しましたが、受け入れられませんでした。そこで、12月議会に、次のような内容の陳情をしました。

1. 来年度以降の工事については、市内に住むミゾゴイの専門家、地質の専門家の意見を聞き、工事の再検討、樹木を切らない工法の採用などを都に依頼してほしい。
2. 市内のミゾゴイの営巣地を守るよう、環境保全に取り組んでほしい。

残念ながら陳情は採択されませんでした。市側の答弁で「今年度の工事が終わった段階で、専門家や陳情者も交えた報告会を持ちたい」ということが出ましたし、都側も「今回の工事で緊急性のある場所は終了する」「当面は工事予定はない」と言っています。私たちは、住民の安全を守りつつ、自然環境も守れるよう、今後も都や市に要望し、話し合いを続けます。(佐橋京四郎)

*「三内川」は地域で使われている呼び名で、行政上は「深沢川」が使われています。



市議会を傍聴して



昨年12月11日委員会の傍聴をしました。なんと初体験！ちょっとワクワクドキドキ。傍聴案件は「深沢川砂防工事におけるミゾゴイ保護に関する陳情」の採択について。審議したのは環境建設委員会です。

さて、この陳情の中身ですが、絶滅危惧種となっているミゾゴイが巣を作っている深沢川河岸の砂防工事が始められたことに対して、①今後の工事について再検討する、②市内在住のミゾゴイの専門家の意見を反映させる、③樹木を伐採せずに崩落を防ぐノンフレーム工法をできる限り採用してほしい、と

いうものです。

委員会の中では、行政側から深沢川の砂防工事が市民の生命、財産を守るためにぜひとも必要なものであると、再三再四述べられ



ました。「市民の生命、財産の保護」は確かに大切なものですが、それだけではあまりにも漠然としすぎています。行政が事業を行うときにはもう少し精密な、たとえば川が崩落する雨量の想定などがなされているはずであり、それらが委員会の場で論議されなければ、工事の必要性に説得力が生まれてきませんし、ミゾゴイとの共存についての施策も生まれてこないでしょう。委員の方々には、市民の代表としてそのあたりの詳しい論拠や数字を行政から委員会の場に引き出し、今後の論議をさらに深め洗練していくような運営をしてほしいと思いました。

また、委員会傍聴初体験の私をとっても混乱させる場面もありました。採択の可否を各委員が表明する時のことです。「陳情が行政の方向性と同じであるので、採択しよう」という委員と「方向性と同じであるので、陳情を

採択する必要はない」という委員がいたので。陳情というのはどういう時に採択するのでしょうか。私にはまったく分からなくなりました。たぶん、それも各委員に任されているってことだと思いますが、それってあまりに政治的過ぎるような気がします。せめてどういう時に、陳情が採択になるのかガイドラインがあれば、陳情者の納得度も上がるのではないのでしょうか。まだまだ委員会傍聴で感じたことはありますが、とりあえず…傍聴初体験の感想です。(H・K)



「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」の紹介

「くさしぎ」は鳥の名前ですが、「草の根市議」という意味も込め、会の名前としました。2011年の福島原発事故以後、多くの気づきがありました。その中で「今まで私たち市民は、あまりにも政治家に政治をお任せにしてきたのではないか」という苦い反省もその一つです。「くさしぎ」はこの反省に立ち、もっとも身近な市政に、私たちの代表の「草の根市議」を誕生させ、その市議とともに市政に主体的に関わろうと呼びかける、あきる野市民の会です。

～つながりましょう～

(^_^)/ 「くさしぎ」メンバー募集中 (*^_^*)

「あきる野のごみが気になる」「放射能は大丈夫?」「市の財政はどうなってるの」なんて市政に少しでも興味がわいた方、「くさしぎ便り」を今後も読みたい方、「くさしぎ」のメンバーになりませんか? ひとりの市民として楽しく市政に関わりましょう。

連絡先 ・ e-mail kusasigi@nifty.com

・ 〒190-0154 あきる野市高尾 182-1

Tel&Fax 042-596-4569(佐橋)

